

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20330023

研究課題名（和文） 民主政治と政治制度

研究課題名（英文） Democracy and Political Institutions

研究代表者

川人 貞史（KAWATO SADAFUMI）

東京大学・大学院法学政治学研究科・教授

研究者番号：10133688

研究成果の概要（和文）：

この研究では、政治制度と政治アクターの相互作用のダイナミックスを、民主政治の機能に焦点を当てて分析する。共通する研究課題として、(a)政治制度は民主政治の機能にとってどのような影響・効果を持つか、(b)政治制度がどのようにして形成・創設されたか。それが、政治制度の効果にどのような関連性を持つか、を設定して、明文、不文の政治制度ルールを分析する。

研究成果の概要（英文）：

This research project analyzes the dynamic interaction between political institutions and political actors focusing on how it affects the functioning of democracy. Two overarching research questions are: (a) How do political institutions affect the performance of Democracy? (b) How do political institutions develop and change in Democracy? A set of formal and informal political institutions are analyzed.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2010年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	14,100,000	4,230,000	18,330,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：比較政治，政治制度，民主政治

1. 研究開始当初の背景

『民主政治と政治制度』の研究は、政治制度が民主政治の機能にとっていかなる影響を及ぼすかを探求し、分析する。制度の影響に焦点を当てる研究は、一般に新制度論アプローチと呼ばれ、本研究もそうした学術的背

景の中に位置づけられる。

しかし、制度が政治的行動や政治過程に影響を及ぼすというだけでは、分析としては不十分である。政治に影響を及ぼす制度がそもそもどのように形成・創設されたかを明らかにしなければならない。そうするとき、制度が、制度によって制約されるアクターたち自

身によって形成されるという内生性が問題となる。制度→アクターへの影響という因果関係に加えて、アクター→制度形成という循環的な因果関係の分析も本研究の重要な課題である。

制度の形成・創設は、現在の制度の機能・効果から推測するべきではなく、それ自体が重要な歴史的事実研究の対象である。制度には多様な効果がありえ、制度設計者が目的達成に効果的な制度より社会的に適切な制度を選択することがあり、制度設計者が長期的効果より短期的効果を優先することがあり、また、制度設計者が意図しないものが制度の主要な効果となることもある。そして、制度をとりまく社会環境やアクター自身も時間とともに変化する。これらの要因は、すべて、制度の効果と制度設計者の意図との関係をより複雑なものにする。したがって、現在の制度の効果を説明する上で、制度設計者の意図は、それほど大きなウェイトを持たない。そこで、制度研究は、制度が時間的経過とともに変化するダイナミックなプロセスの重要性を認識する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、多様な政治制度と政治アクターの相互作用のダイナミクスを、民主政治の機能に焦点を当てて分析する。この研究を進めるために、まず、共通する研究分析課題を設定する。

(a) 政治制度は民主政治の機能にとってどのような影響・効果を持つか。

(b) 政治制度がどのようにして形成・創設されたか。それが、政治制度の効果にどのような関連性を持つか。

これらの課題を具体的に分析するために、次の政治制度に注目する。

(1) 戦前日本の政治制度として、内閣成立をめぐる制度ルールとしての『憲政常道』および衆議院議員の選挙制度の変遷を取り上げる。

(2) 現代日本の政治制度として、選挙制度改革と有権者の認知動員および国会における内閣不信任制度を取り上げる。

(3) 選挙制度の効果に関する一般的法則であるデュベルジェの法則を取り上げる。

(4) 比較政治学の観点から、分割政府を取り上げる。

本研究は、現代政治学、日本政治史、比較政治学の研究分野にわたる研究者の共同作業として、さまざまに異なるこれまでそれぞれ独立に関連づけられることなく分析されてきた政治制度が、共通の分析枠組みによって分析・整理される結果として、新しい斬新な研究のアイデアが触発されたり、思いもかけない共通のメカニズムおよび一般的な

ダイナミクスが発見されたりすることを期待している。たとえば、戦前の政党内閣期の『憲政常道』という政権交代ルールは、多数党政権が倒れた後に少数党政権の成立をもたらすことが多かったが、これは現代民主政治から見るとおかしなルールであるにもかかわらず、日本政治史研究上あまり問題とされていない。また、アメリカに見られる分割政府は、日本では衆参ねじれ国会、フランスではコアビタシオンという形で同じような現象が生じている。本研究では政治制度の形成・存続・効果とアクターとの相互作用に注目することで、民主政治の機能の多様な現れ方を明らかにする。

また、こうした共同研究作業および海外研究協力者との連携によって、研究代表者および分担者の間で、新しい研究テーマを発見する可能性が高まることである。こうした作業が日本政治学会の研究レベルをいっそう高めることに貢献することをめざしている。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、『民主政治と政治制度』をテーマとして、政治制度→アクターへの影響という因果関係に加えて、アクター→政治制度形成という循環的な因果関係の分析を中心に進める。

(2) 具体的な研究テーマとして、「近代日本における多数主義と「憲政常道」ルール—政権交代をめぐる制度と規範—」、「1925年中選挙区制導入の背景」、「衆議院選挙制度改革の評価と有権者」、「なぜ否決される内閣不信任案が提出されるのか?」、「選挙制度の非比例性に対する機械的效果」、「分割政府の比較政治学—事例としてのアメリカ—」を取り上げ、研究を進める。

(3) 以上の研究を、年報政治学の特集「民主政治と政治制度」にまとめ、2009年度に刊行する。

(4) 研究代表者と研究分担者は、研究期間中に国際的学会での報告など国際的な発信と研究の進展をめざす。また、最終年度には、欧米から民主政治と議院内閣制に関するトップ・レベルの政治学研究者を招き、研究代表者および研究分担者が組織し、共同研究発表と討論を行う国際シンポジウムを開催する。

4. 研究成果

(1) 『年報政治学 2009-I』の特集

日本政治学会の『年報政治学 2009-I』に「民主政治と政治制度」のテーマの特集を組

み、研究代表者と研究分担者とで構成される年報編集委員会が研究と論文執筆を行い、2009年6月に刊行した。その主要論文は、下記5に記載されている。

(2) 国際的な発信と研究の進展

研究代表者と研究分担者は、日本政治学会、日本選挙学会に出席し、研究報告等を行った他、Midwest Political Science Association, Society for Political Methodology, American Political Science Association, International Political Science Association, Southern Political Science Association 等の年次研究大会に出席し、報告および研究者との意見交換を行った。また、研究代表者と研究分担者の増山、待鳥は、3人が参加する基盤研究のプロジェクトにおいて、2011年2月末から3月初に欧州議会における立法過程、政策情報の発信、議会事務局の役割と機能に関する面接聞き取り調査を行い、本研究にも資するところが大きかった（「政策情報公開の包括化・国際化・ユニバーサル化」基盤研究S、2010～2014年度、研究代表：増山幹高）。また、研究代表者はその直後に、フィレンツェにおいて、他の研究グループとともに、政党地方組織に関する聞き取り調査を行った。

(3) 国際シンポジウムの開催

研究代表者および研究分担者は2010年11月22日に東京大学においてイギリスおよびアメリカから2名の研究者 Simon Hix, Kaare Strom を招き、東京大学・国際シンポジウム、"Conference on Democracy and Political Institutions" を主催し、研究代表者がセッションの司会、討論、招聘研究者2名および研究分担者の待鳥、福元、増山の3名が研究報告、討論を行った。国内の研究者約30名の一般参加があり、研究成果を発信する目的を達成することができた。

(4) 公刊物

上記の研究活動による成果が以下5の主要な雑誌論文にあげるように公刊されている。

(5) 未公刊の研究の進展

研究代表者および研究分担者は、3年間にわたる研究活動・研究報告からさまざまなフィードバックを得ている。それをもとに、それぞれが新規の論文執筆および、論文の修正を進め、国内外の研究雑誌に投稿するよう準備を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計22件)

- ① 川人貞史，衆議院議員経歴の長期的分析1890-2009，国家学会雑誌，査読無，124巻5・6号，2011，145(335)－111(301)
- ② 山田真裕，2009年総選挙における政権交代とスウィング・ヴォーティング，選挙研究，査読無，26-2，2010，5-14
- ③ 待鳥聡史，アメリカにおける政権交代と立法的成功，レヴァイアサン，査読無，47号，2010，40-64
- ④ 川人貞史，二重の国会制度モデルと現代日本政治，レヴァイアサン，査読有，46，2010，96-113
- ⑤ 待鳥聡史，分割政府の比較政治学—アメリカを事例として—，年報政治学，査読有，2009-I，2009，140-161
- ⑥ 奈良岡聰智，1925年中選挙区制導入の背景，年報政治学，査読有，2009-I，2009，40-61
- ⑦ 福元健太郎，選挙制度の非比例性に対する機械的効果，年報政治学，査読有，2009-I，2009，110-139
- ⑧ Kentaro Fukumoto，Systematically Dependent Competing Risks and Strategic Retirement，American Journal of Political Science，査読有，53，2009，740-759
- ⑨ 増山幹高，内閣不信任の政治学—なぜ否決される不信任案が提出されるのか？—，年報政治学，査読有，2009-I，2009，79-109
- ⑩ 村井良太，近代日本における多数主義と「憲政常道」ルール—政権交代をめぐる制度と規範—，年報政治学，査読有，2009-I，2009，13-39

〔学会発表〕(計16件)

- ① Mikitaka Masuyama and Benjamin Nyblade，"Changes in Delegation and Accountability，" Conference on Democracy and Political Institutions，November 22，2010，University of Tokyo
- ② Hironori Sasada，Naofumi Fujimura，and Satoshi Machidori，"Alternative Paths to Party Polarization: External Impact of Intraparty Organization in Japan." Conference on Democracy and Political Institutions，November 22，2010，University of Tokyo
- ③ Kentaro Fukumoto，"A Bayesian View of Party Systems，" Conference on Democracy and Political Institutions，November 22，2010，University of Tokyo
- ④ 山田真裕，2009年衆院選におけるスウィング・ヴォーターの政治的認知と政治的情報環境，日本政治学会，2010年10月10日，中京大学

〔図書〕（計1件）

- ① 山田真裕・飯田健,『投票行動研究のフロンティア』おうふう, 2009, 381

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川人 貞史 (KAWATO SADAFUMI)
東京大学・大学院法学政治学研究科・教授
研究者番号: 10133688

(2) 研究分担者

増山 幹高 (MASUYAMA MIKITAKA)
政策研究大学院大学・政策研究科・教授
研究者番号: 50317616

山田 真裕 (YAMADA MASAHIRO)
関西学院大学・法学部・教授
研究者番号: 40260468

待鳥 聡史 (MACHIDORI SATOSHI)
京都大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号: 40283709

奈良岡 聰智 (NARAOKA SOCHI)
京都大学・大学院法学研究科・准教授
研究者番号: 90378505

村井 良太 (MURAI RYOTA)
駒澤大学・法学部・准教授
研究者番号: 70365534
(H20-H21 年度まで)

福元 健太郎 (FUKUMOTO KENTARO)
学習院大学・法学部・教授
研究者番号: 50272414

(3) 連携研究者

なし